

# まちの話題

## 樹齢500年 古木を守る

### 糸原みづめ桜保存会が「さくら功労者」に

日本さくらの会が桜の振興に尽力した団体等を表彰する「さくら功労者」に、大屋町糸原の「糸原みづめ桜保存会」（田村剛会長、13人）が選ばれました。

みづめ桜は、御祓山（標高773<sup>メートル</sup>）の標高600<sup>メートル</sup>付近にある樹齢約500年の古木で、高さ約25<sup>メートル</sup>、幹回り約5・3<sup>メートル</sup>の桜です。

同保存会は平成4年に結成され、登山道の整備や周辺の草刈りなどに取り組み、みづめ桜の保存に尽力されています。また、開花時期には訪れる人々を案内するなど、みづめ桜を多くの方に知ってもらうための活動を続けられています。



見事な花を咲かせる「みづめ桜」

## 威勢よくみこしを担ぐ

### 春を告げる但馬の奇祭「お走りまつり」盛大に

江戸時代には行われていたとされ、但馬の奇祭と呼ばれる「お走りまつり」が4月16日、17日に行われました。この行事は、重さ150<sup>キログラム</sup>のみこしを担ぎ、養父神社から斎神社までの往復約40<sup>キログラム</sup>を2日間かけて練り歩く伝統行事です。

養父神社を出発したみこしは16日正午過ぎ、お走りまつりの見せ場の一つ「川渡御」が行われる小城橋に到着。大勢の観客が橋の上から見守る中、担ぎ手たちは胸まで水につかりながら「ハットウ、ヨゴザルカ」と勇ましい声を上げて、川幅約60<sup>メートル</sup>の大屋川をみこしを担いで渡りました。

また、老朽化していた斎神社のみこしがこのたび新調され、17日に建屋で養父神社のみこしと迫力ある「練り合わせ」も披露されました。



水しぶきを上げながら威勢よく川を渡る担ぎ手たち

## 行楽シーズンの安全・繁栄を祈願

### 天滝まつりを開催

行楽シーズン中の安全祈願と多くの観光客が訪れるようにと「天滝まつり（山開き神事）」が4月10日、天滝口大駐車場で開かれました。

この行事は、地元・筏区（中尾亨区長）と天滝を生かす会（中尾登美夫会長）が共催して開催したものです。はじめに神事が行われ、今年も安全に多くの観光客が楽しめるように祈願。その後、お好み焼きなどを販売するバザーテント、ビンゴゲームなど趣向を凝らしたイベントが行われ、会場を訪れた観光客らは催しを楽しんでいました。



観光客でにぎわうバザーテント